

いい顔、ありがとう

和納第二保育園・ふれあい農園、で(7月20日)



●この広報紙にあなたが写ってましたら、総務課企画係(☎04-11-内線二二五)へご連絡ください。写真をさしあげます。

沖野君は昨年八月、交通安全協会和納支部から推薦をうけ、「巻地区原付自転車安全運転競技大会」に友達とともに出場。個人部で見事、優勝(本紙61年9月1日号で紹介)、そのまま県大会の巻地区代表として参加したものです。県大会には地区予選を通過した女性九人を含む三十九人が参加。排気量別などで四クラスに分かれて、安全運転マナーを競う法規運転と技術を競う技能走行の二つが行われました。



「オートバイは、ホント大好きですね」と目を輝かせて話すのは、先月十二日に黒埼町の県運転免許試験場で開かれた「第三回」二輪車安全運転県大会」の高校生クラス(五十歳以下)で優勝した和納六区の沖野一義君(十七歳・燕工業高校三年)です。

このひと

安全運転は最高のテクニック

分かれて、安全運転マナーを競う法規運転と技術を競う技能走行の二つが行われました。法規運転は交差点での安全確認や障害物をよける操作など一般道での走行マナーが基本のもの。技能走行は一本橋やプロックの置かれた幅三十センチ、長さ十五メートルのクネクネ曲がった板の上を制限時間十五秒で脱輪せずに渡るプロックスネークなど高度な技術が必要です。「大会当日は雨で本当にしんどかったけど、僕の場合、雨がかえって味方したような気がします(うまい人がすべって脱輪したりしたため)」。ふだんの腕前では、とても優勝なんかできませんね」と運の良さを強調。しかし、運の良さだけでは、とても片付けられませぬ。地区大会の優勝だけでもむずかしいのに、その上にある県大会での優勝ですからね。また、技能走行では適性が優先されるかもしれませんが、法規走行はふだんの走行マナーがそのまま評価されるわけですから、沖野君の安全運転ぶりが分かりま



「気軽にチャレンジしてきます」と沖野くん

すね。交通安全協会和納支部長の竹内勝衛さんも「大会は減点方式で採点されるため、入賞するのは本当にむずかしいことです。仮に優勝しても違反がある」と失格になってしまいますから、それこそ模範運転者でなければなりません。沖野君の快挙が次の人たちの励みになってくれればうれしいですね」と手拍をしながら喜ぶ。ところで、沖野君は今月八日、九日に三重県鈴鹿サーキット場で開かれる全国大会に県代表として出場します。そのため、毎週土曜日の午後、県警の白バイ隊から走行などの特訓を受けています。「全国大会でも気軽に気持ちでチャレンジしてほしいね」の竹内支部長のアドバイスにうなづく沖野君の目の奥に「やれるところまでがんばってみます」と秘めた闘志が感じられる。「全国大会にいけるだけでも十分です。これからは気をゆるめずに安全運転をします」と控え目に語る沖野君の姿勢に頭が下がる。安全運転はそれこそ、心・技・体の調和がなければできないことで、この点では沖野君は抜群だな、とインタビューの中で感じた。

二輪車安全運転県大会で優勝した

沖野 一義くん(和納六区・17歳)

この手、だれの手?

間瀬保育園で楽しい貝汁大会

なにやら幕を境に手を検証——実はこれ先月15日、間瀬保育園で開かれた夏恒例のイベント「貝汁大会」での「子供あてゲーム」の一場面。間瀬保育園では、毎年夏、親子で貝汁(アサリ汁)を囲んで楽しい夕べを過ごそうと行っているもので、今年で3回目。涼しい風の吹く園庭で、貝汁をメインに夕食をとり、レクダンスや親子ゲームでふれあいの「夏」を楽しみました。大会のしめくりは夏の風物詩——花火。煙で隣の人が見えなくなりながらもみんな楽しそう……。



▼好評の「健康づくり教室」がスタート——昨年、地域健康づくりの一つとしてシリーズで開催して好評だった「健康づくり教室」が先月21日から再スタートしました。会場の保健センターに集った参加者は主婦ら35人。開講式のあと軽いスポーツで仲間づくりを——と行われたジャズダンスやエアロビクスにみなさん汗を流しました。教室は12月まで毎月1回ペースで開催します。次回はみなさんもぜひ、どうぞ。



再スタートだ

先月十二日、間瀬・下山にある「日本海間瀬サーキット」(京都市・嶋倉英夫代表)で全面的な再開を祝うオープンイベントが開かれました。長い閉鎖状態にあったサーキット場のオープンを祝い県内外から若者ら約千人が入場。クラシックカー、二輪レーシングマシンなどのデモンストレーションがあり、訪れた人たちはめじろ押しイベントに満足そう……。